

## 信用保証協会

継続的な勉強会と支援ツールとしての活用により  
「認知」から「定着」へ

## 令和5年度取組内容

当協会では、「着眼点」が、経営支援において非常に参考になると認識し、職員に向けてテキストとして学ぶだけでなく、体感する機会を増やしたいと考えた。また、県内金融機関、支援専門家などの関係機関に早期周知・活用を図った。

協会内では、動画視聴会とグループディスカッションを組み合わせた勉強会を実施し、「着眼点」をどのように利用するのか意見が交わされた。また、外部講師を招いた経営支援スキル向上セミナーを開催した。これらの取組により、「着眼点」を知る・体感する機会を提供した。対外的な取組では、外部機関への早期周知・活用を目的に、県内の金融機関や支援専門家等向けに勉強会を実施した。その中で意見交換を行ったことにより、それぞれにおける「着眼点」を通じた経営支援に対する考え方を理解し、共通の言語・目線を持つことができた。

## 令和5年度からの進展内容

【協会内の取組】社内のグループウェアへの「着眼点」の掲示に加え、タブレット端末にも保存し、現場職員が事業者訪問時にも内容を確認できるようにしている。また、事業者とのヒアリング時に使用していた当協会独自の「事業者支援シート」に「着眼点」の要素を盛り込み、令和6年4月から活用を開始した。

【対外的な取組】とちぎ中小企業支援ネットワーク会議金融機関分科会において、地元金融機関や関係機関向けに外部講師による「着眼点」（製造業・サービス業）解説、普及促進について説明をいただいた。その後、各金融機関での活用方法等について情報交換を行った。また引き続き県内の金融機関、商工団体及び保証協会の若手職員向けに本業支援のスキル向上を図る「事業者支援スキルアップキャラバン」でも紹介・共有し、周知を図った。

## 担当者ヒトコトコメント

継続的な研修等により「着眼点」の理解促進を進めていくとともに、テキストとして学ぶだけでなく職員間で知識や経験の共有化を図り、「着眼点」をより現場で活用しやすいものとする事で定着させていきたい。



## 令和6年度新たな取組内容

## 【協会内の取組】

金融庁開催の「『業種別支援の着眼点』勉強会」に参加した職員を講師に内部研修会を開催した。同職員から「着眼点」に新たに追加された3業種（製造業・サービス業・医療業）についての解説を受けた後、事業者との対話時のポイントやヒアリング時に使用している「事業者支援シート」の活用についてグループディスカッションを行った。訪問前の事前準備から事業者への質問、ヒアリングの内容といった対話時のポイントや「着眼点」を踏まえ、「事業者支援シート」にどのような項目があるとさらに使い勝手がよくなるかなどについて、若手職員と中堅職員が意見交換を行うことで、若手職員にも事業者支援の知見が共有できたと実感している。グループディスカッションでの意見を参考に「事業者支援シート」のアップデートを考えている。

「着眼点」の理解が進んできており、特に若手職員の初動対応において、支援ツールとして活用することで「訪問時に事業者とスムーズに対話ができた」、「的確な質問等ができ事業者の反応が良かった」などの事例がでてきているなど、「着眼点」が「認知」の段階から活用による「定着」の段階へと進みつつある。

## 【対外的な取組】

金融機関の若手職員向けに信用保証業務への理解を深めることを目的に開催している「保証業務講座」の1コマで、共通の目線・言語で事業者支援に取り組めるよう「着眼点」の内容を紹介する講義を行い、周知を図った。

今後も継続的な勉強会等により、「着眼点」の周知を図っていきたい。



## 今後の取組み（活用）について

「着眼点」に関する勉強会とグループディスカッションを継続的に開催し、「着眼点」をより定着させたい。また、「事業者支援シート」を継続的にアップデートし、事業者支援の現場で、より一層活用しやすくしたい。

「着眼点」活用の  
“新”ポイント

## 01 着眼点の要素を盛り込んだ独自の「事業者支援シート」の作成

事業者とのヒアリング時に利用していた独自の「事業者支援シート」（全7業種）に「着眼点」の要素を盛り込み、事業者支援の初動対応時に、より活用しやすいものとした。

## 02 「認知」から「定着」へ

継続的な勉強会やタブレット端末に保存した「着眼点」「事業者支援シート」を訪問時にも確認できるようにするなど、実践的なツールとして活用を促進したことで、事業者とのスムーズな対話につながり、「着眼点」が「認知」から「定着」にシフトしている。

## 03 「着眼点」の普及促進による連携強化

地元金融機関や支援専門家・関係機関等向けに「着眼点」の勉強会を実施し認知度向上のための普及活動を継続的にしている。

# 動画視聴会や勉強会等による 組織内外の「着眼点」認知の機会創出

## 着眼点を体感する動画視聴会

協会内の参加希望者を募り、動画視聴会を、5月～6月に3回に分けて実施。各回約40分で「着眼点」読み上げ動画を視聴（1本約10分×5本）した後、20分ほど意見交換する形とした。初回は単純な感想の共有が中心であったが、3回目には「着眼点」をどのように利用するかという点に焦点を当てたディスカッションが展開され、活発な意見がかわされるようになった。

また、中小企業診断士を招いて開催した「経営支援スキル向上セミナー」においては、事業者との対話や現状把握とそれを踏まえた経営課題への対応方法に加えて、中小企業診断士の視点から見た着眼点についても講義をいただいた。

これらの取組みは、「着眼点」が経営支援において非常に参考になるため、ただ単にテキストを知識として学ぶのではなく、実際に体感する機会を増やすために始めたものである。特に、若手の職員にとっては、「事業者支援の本質を再認識した」「現場の実態に近い内容で使いやすい」「訪問時の着眼ポイントがよくまとまっている」といった感想があり有益であったと考えている。



業種別支援の着眼点動画



3回に分けて動画視聴会と意見交換会を実施。

まとまった時間が中々とれない職員に対し、短い時間で要点をまとめている動画を見ることで、着眼点に触れるハードルを下げている。

## 組織の枠を超えた勉強会等を企画・開催

協会職員向けの周知に加え、県内金融機関の経営支援担当者向け、支援専門家や関係機関向け、とちぎ中小企業ネットワーク会員向けに「着眼点」の早期周知と早期活用を図るべく、それぞれ勉強会を企画・開催した。各機関との間で「着眼点」を通じた意見交換を行うことにより、経営支援に対するそれぞれの考え方を理解し、共通の言語・共通の目線を持つことができた受け止めている。

また、県内の金融機関、商工団体及び保証協会の若手職員向けに本業支援のスキル向上を図る研修会「事業者支援スキルアップキャラバン」の中でも、「着眼点」の内容を紹介・共有している。

## 今後の取組

こうした動画視聴会や研修会のほか、講師養成を目的に金融庁で開催された「『業種別支援の着眼点』勉強会」に参加した職員を講師としての研修会を計画している。具体的には、協会職員向けの内部研修会と協会が金融機関の若手職員向けに開催している「保証業務講座」の1コマとして講義を行う予定だ。

継続的に研修を実施することにより、職員の「着眼点」への理解を深めるとともに、今後発展的な活用を検討したいと考えている。



### 担当者ヒトコトコメント

「着眼点」は実務と人材育成に役立つ良いテキストなので、積極的な活用を目指しています。

## 「着眼点」 活用のポイント

01

### 動画によって知る・体感する機会

ショート動画数本の視聴と意見交換等を組み合わせ、協会内部職員向けに「着眼点」を知る・体感する機会を提供している。

02

### 県内関係機関向け勉強会の実施

県内の金融機関や支援専門家・関係機関等向けに勉強会を企画・開催し、「着眼点」の周知・活用を図っているほか、金融機関等の経営支援人材育成にも役立てている。

03

### 支援専門家との連携

「着眼点」を通して意見交換を行い経営支援に対するそれぞれの考え方を理解し、共通の言語・共通の目線で支援ができるよう努めている。